



代表取締役 社長

澤井 大輔
SAWAI DAISUKE

代表取締役 社長

香山 健二
KAYAMA KENJI

新年のご挨拶

OZAWA TIMES

新年おめでとうございます。2024年も、私たちは工業プラントをはじめ、さまざまな産業機械の設計や製造、施工、保全などに取り組み、お客様のニーズに応え続けてきました。その根底にあるものは、「新しいものづくりへの挑戦」です。ご要望の一つひとつに丁寧に向き合い、ふさわしいサービスを的確に判断し、応用力を活かした提案を展開していく。迅速で妥協のないエンジニアリング力が、より高い製品価値を生み出してきたと自負しています。これからも引き続き、未知なる「カタチ」に挑み、お客様に満足いただける製品を提供していくには、皆さんの成長と頑張りが不可欠。2025年、私たちがさらに飛躍していくために、意欲的なチャレンジをしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

努力の積み重ねが結果に

駐車部門における2024年の取り組みを振り返ると、大阪営業所の開設や、立体駐車場関連への意欲的な進出の勢いはや

落ち着きを見せ、それと入れ代わるようにしてサブリース事業での大きな進展と成果が見られました。担当者が今まで積み重ねてきた努力が形となって現れてきた結果だと思えます。

自分のやるべき仕事と向き合う時間をしっかりと確保し、業務の仕組み化を進め、「次にとどのようなアクションを起こしていけば良いのか」がよりクリアに。さらに周囲とのスムーズな連携を実現できたことで、素晴らしい成果につながりました。

決算時において、駐車部門と製造部門を合わせた会社全体の売上高は、15億円に到達。順調に業績を伸ばしていくことができました。

製造部門も好調をキープ

製造部門に関しては、部門単体での12億円の売上高を達成しており、好調を維持し続けています。これといった新規開拓を行っていないにもかかわらず、こうした数字を出せたのは、社員の皆さん一人ひとりが質の高い

新人評価制度がスタート

人事評価制度の運用スタートは、昨年大きなトピックの一つ。この制度は、上司とともに個別の年間目標を設定し、結果だけでなくプロセスも重視しながら、定量・定性の両

サービスを心がけて、お客様のために取り組んできた結果だと確信しています。

第一工事は、長年にわたってお付き合いしてくださっているお客様から、定期修理工事の案件を毎年いただいております。安定した売上上げを確保しています。

第二工事は相変わらずの忙しさでしたが、自身で溶接作業もできる即戦力のある社員が新しく1名加わり、組織の機動性が大幅に向上しました。今まではお客様からの案件が重なる時、どちらかの工事を一時ストップさせて対応せざるを得ず、さらに、せっかくの売り上げをロスしてしまっている状況でした。そのような状態が解消でき、製造部全体の売り上げの向上に寄与してくれたと考えています。

側面をしっかりと評価するもの。それぞれの頑張りが適切に評価され、目に見える形で自身の取り組みの成果が反映される仕組みになっています。

現在は、制度設計の段階から参与されている外部コンサルタントの方に、全社員へ向けのアンケート実施していただき、結果を取りまとめているところ。新しい制度を導入した効果を実感できるのももう少し先になりますが、「自分たちが何を目指して、どのように取り組んでいけば評価されるのか、その基準がクリアになって、非常に良かった」という声を耳にしており、今後に向けた手応えを感じています。

技術力向上へのこだわりを

個々のメンバーの、技術習得への意欲を高め、いかに育成していくのか。これは、今後に向けた製造部門全体の大きな課題です。日々の業務に追われている中で、小澤製作所に入社したときの初心を、知らぬ間に忘れてしまいがちです。はじめは「技術を学ばせ」

また、新しいメンバーが加わっただけで満足せずに、私たちは未来を見据えた投資を積極的に行っていきたくと考えています。一番のメインになるのは、やはり「人」の部分。そもそも人がいなければ、会社は成り立ちません。会社の発展を支えるのは、人の成長であり、個々の成長をいかにサポートしてあげるのかは、会社にとっての重要なミッションです。

やはり、そこで大事になってくるのは、社内教育の仕組みづくり。現在、第一工事中では、新入社員の育成に向けた4か年計画を作成中です。教育内容をしっかりと練って、やがては工事中、設計部全体に広めて確立させ、採用後の人材の育成強化を図っていくつもりです。

健康と働きがいを重視して

2024年の1年間は慌ただしくも非常に充実した年でした。皆さん、本当にお疲れ様でした。一人ひとりの頑張りに、深く感謝しています。ただ、ここで積み重ねてきた苦

といったスキルアップへの意欲があったのではないだろうか。それがいつの間にか、「施工管理職は結局、職人を配置して、どう滞りなく回していけば良いのかを考えていく仕事なのだ」と、本来とは異なる捉え方をされてしまつては、非常に残念なことです。施工管理職、機械設計職を問わず、「スキルアップしていきたい」「技術的なところを深めていきたい」と思っに入社してくれた新人の皆さんが、その志やモチベーションを保ち続けていくために、会社として何ができるのかを追求していかなければなりません。そのための具体的な取り組みとして、技術的な知識を蓄えられる場を設けようと、月1回の勉強会を開催しました。皆さんの反応は上々

で、自主的に集まって熱心に学んでくださっています。勉強会をもっと増やしてほしいという要望を受け、今では2週間に1回のペースで行うようになりました。こうした育成面でのバックアップを、これからも継続して注力していきたいと考えています。

労や努力が、真の意味で活かされてくるのはこれから。2025年も、あくなき挑戦心をもって前へ進んでいきたいと思っています。良い仕事をしていくための大前提となるのが、体の健康です。ここが崩れてしまうと良い仕事はできません。本人はもちろん、ご家族や友人、職場の仲間たちが安心して幸せな生活を送っていくためにも、健康第一で仕事に取り組んでもらいたいと思います。

世の中全体で働き方改革が進められ、小澤製作所でもDX化による作業の効率化や就業時間短縮の推進に努め、スキルアップ支援、酸素カプセルの導入など福利厚生面の充実も図りました。品質の向上によるお客様の満足と、皆さんにとって働きがいのある環境づくりの両方を実現させるべく、これからも全力で取り組んでいきます。

変化の激しい時代を会社が生き抜いていくには、個々の社員が自分自身の能力をいかに高めていけるかにかかっています。健康と安全に気をつけながら、向上心を忘れずに、2025年も一緒に頑張りましょう。

会社の発展を支えるのは「人」

2025年は、数名の新しいメンバーが入ってくる予定。第二工事中で、1月に1名、2月にもう1名の入社が決まっています。1月入社の方は、メーカー勤務で営業職と施工管理職を兼ねていたとのこと。工場に納める設備などを取り扱っており、私たちの業務に非常に近い部分があると感じています。2月に入る方は30代で、作業者かつ個人事業主をされていました。2人とも、今後の活躍が非常に楽しみです。第二工事中は、これで5名の体制となり、各人がさまざまな役割を兼ねていた状態から、本来の業務に専念している状態になってきました。

2025年も引き続きメンバーを募集しています。あと5名ほど増えてくれれば、個々の業務負荷がさらに軽減されるのはもちろん、売り上げを大きく伸ばしていける体制が整つでしょう。この先の段階としては、第一工事中と第二工事中との連携の強化、機械設計部門の人員増強を図っていき、製造部門の強固な体制を構築していきたいと思っています。

